

平成 28 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム城山の杜 (2丁目)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社信樹会		
事業所名	グループホーム城山の杜2丁目		
所在地	岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0392900031-00&amp;PrCd=03&amp;VerSi=onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0392900031-00&amp;PrCd=03&amp;VerSi=onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 3月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは近隣にバス停や病院、コンビニ、郵便局などがあって比較的利便性が高く、ご家族の面会等にも便利な立地となっております。  
また、ホームで働く職員の定着率も上がってきており、経験や技術・知識が豊富な職員が働いております。  
これからも、積み重ねてきた介護の技術や経験を活かし、入居者のみなさんが住み慣れた場所で穏やかに自分らしく暮らしていけるよう支援してまいります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一昨年来の職員不足を解消し、2ユニット15人のスタッフ全員で協力し、利用者一人ひとりの気持を大切にしながら支援にあたっている。利用者は2ユニットで共用する広いホールの食卓やソファで表情も明るくゆったりと過ごしており、職員との会話も自然で、ホール全体にリラックスした空気が流れている。周辺の環境が大きく変わらな中で孤立感を深めることなく、地域との関係を再構築することが喫緊のテーマとなっており、災害復興住宅など比較的高齢の方々が居住していることから、事業所の認知症介護等の知識を生かした貢献などを模索しており、数少ない大槌町の地域密着型の事業所としての活躍が期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム城山の杜 (2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、運営方針はスタッフ室に提示し職員はいつでも確認でき意識し支援できるよう努めている。	昨年度ベテランの職員が退職し、職員の入れ替えもあったが、2年目に入り、内部研修で理念にもふれるなど余裕も出てきている。理念に基づく運営目標を日々のケアの中で実践出来ているか、管理者はミーティング等で職員に問いかけを続けながら確認している。	今後、地域環境が大きく変化していくなかで事業所が普遍的に目指すイメージの有無は重要であり、引き続き職員間で理念について話し合っていく機会を設けていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣が工事に入りますます孤立している。	三陸自動車道工事で人の流れが変わり、事業所前の道路は行き止まりになり、人通りも殆どなく、地域との交流を根本的に見直す必要に迫られている。大槌川沿いの仮設住宅、災害住宅等には高齢者世帯が多いことから、事業所の有する認知症に関する知見の発信、さらには福祉避難所として災害に向けた地域の取り組みへの協力など、地域との繋がりを拡げる活動に力を入れたいとしている。	事業所を取り巻く地域環境の変化の中、地域密着型の事業所として地域との繋がりを回復することが課題となっているが、災害復興住宅、高校、幼稚園、病院、郵便局等の社会資源が比較的整っており、川向いには町営住宅が並ぶなど、取り組み次第で新たな地域交流が生まれる可能性がある。代表者を先頭に地域への積極的な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談された場合等はわかりやすくアドバイスできるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況等報告し今後の課題については行政等から情報をいただきサービス向上につなげられるようにしている。	地域から出ている町会議員、民生委員、利用者、家族等で構成され、生活の様子やヒヤリハット、事故事例などを報告し、意見交換している。以前から水の出やすい場所のうえに自動車道の工事で山が崩され盛土されたことで、大雨の際は気をつける必要があるという意見を受けて、水害に関するマニュアルの整備を検討することとした。	地域の方々にとっても、この先の地域づくりはいまだ不透明な部分が多いと思うが、運営推進会議においても自分たちで地区の展望を描き、発信していくような話し合いを進められたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり代表が地域ケア会議に出席し書面を通し職員に伝えている。	地域包括支援センターとは日常的に情報交換が出来ている。災害時には福祉避難所として役場、消防等関係機関と連絡がうまくいくよう日頃から話し合うなど、行政との協力、連携は適切、円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の立場になり共感し拘束のない支援の実践に努めている。	新しい職員には特に言葉による拘束が生じないよう先輩職員が注意している。外部の関連研修に職員を派遣し、報告研修により全員が身体拘束のないケアについて学習している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でも常に意識し取り組んでいる。言葉使いについては毎月のミーティングで注意をよびかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用したい方がいれば支援するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し同意を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しをしその時々意見、要望は取り入れるよう努めている。	家族会の復活はまだ出来ていない。本年度の敬老会には5家族に参加していただいた。毎月利用者個々の生活の様子を「城山便り」として家族に届けており、喜ばれている。支払いを現金払いにしている家族とは毎月1回は話し合いが出来ているが、運営に関する要望等はあまり聞かれない。運営推進会議出席の家族は利用者の生活で感じたことをよく話してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで発言できる機会を設けて皆で話し合い反映させている。	ユニット会議を2ヶ月に1回ユニット毎に開催する他、月末の水曜日に合同の全体ミーティングを開いており、職員間で話し合う機会となっている。両ユニットから職員2名ずつで調理、行事、防災、物品等の各種委員会を構成し、課題等の改善に向けて取り組んでいる。代表者も日々のケアに参加し管理者と異なる立場から職員を指導する場面もあり、職員の思い、意見、提案等を受け止める機会は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の努力・実績・勤務年数等に応じ評価されている。希望休・有給休暇の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員は報告書を通じ周知し情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に情報交換し交流している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態を理解し意見を尊重し話しを聞き可能な限り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望を伺い信頼関係を築くよう努めている。一緒に関わられる関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要とする支援を考え対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から教わる事も多く出来る事はやっていたらいい。不安な気持ちにならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困った時は家族に相談し支援につなげるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り途切れないよう支援するよう努めている。	知人、友人の来訪は大歓迎で、居家でゆっくりお話し出来るよう配慮している。震災によりなつかしい場所や馴染みの場所が喪失したり、行きつけの美容室の場所が変わったりして、利用者に戸惑いもあったが、外出の機会を多くして、心の原風景を大切にしよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮し心地いってもらうためテーブルの席は考慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からお話しがあれば相談できる体制はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話から思いを聞いたり表情、仕草等から感じとるよう努めている	お風呂をはじめ利用者との会話を楽しめる時間を多くつくるよう心がけている。繰り返しの話が多いが、丁寧に傾聴する中から、新しい発見があり、本人の思いや希望を把握できることもあり、それらを職員間で共有し、ケアに役立てるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に家族から話を聞いたり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化には常に気を配り申し送りノートで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がアセスメントを記入しケアマネが中心となり作成している。	ユニット別に計画作成担当者の作成した介護計画を3ヶ月毎のモニタリングで担当者を中心に利用者の状態変化、新たな発見、さらには利用者、家族の要望に基づき計画作成担当者や協議しながら見直しを行っている。本人の状態変化を見逃さず、サービス項目をこまめに変更したり追加したりしながら、現状に合った支援になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートで状態を記入し必要に応じカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りのサービスができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これからできていく地域の集いの場を活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望をとりいれている。	家族同行を原則としてきたが、最近では看護師の同行が多くなっており、本人の状態によっては家族にお願いしている。看護師は介護職員を兼ね本人の状況をよく把握しており、かかりつけ医との連携は円滑である。看護師が産休に入っており、代替職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた気づきを看護師に報告し相談したり指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、職員も面会に行き退院するという希望をもつことができた。病院、家族とで話し合い退院後安心して生活が送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意見を尊重しそれにそったケアに努めている。	近くの協力医に看取り対応をお願いし、了解を得ており、看取り指針も作成し、看取りに向けた体制は出来ている。これまで3人の看取りを経験しているが、ここ1年はなかった。現在は寝たきりに近い方がおり、看取りに向けて準備をしている。管理者が終末期の看護ケアの研修を受講し、職員に伝達研修を行うなど、共通の意識を持つよう努めている。	看取り支援は事業所でも大事にしている部分であり、職員の不安軽減は大きな課題となっている。今後の研修では看取り後のカンファレンス実施についても検討してみることを勧めたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っている。近所の方にも参加いただいている。	火災想定訓練は年2回と定例化されている。昨年の台風のような水害においては、近くの高台に車で避難することとしており、11月にその手順に沿って訓練も実施している。	水害に関しては周辺環境の工事後どのようになるかが全く分からない状況である。環境変化に伴ってこまめに行政等からリスクに関する情報を得ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心・プライバシーを損ねないよう、他入居者から害されないよう努めている。	“人間としての尊厳を大切に”を運営目標に掲げており、言葉遣いについても、単に形式的に敬語を使うだけでなく、相手の気持ちを察しながら、対応するよう心がけている。居室、トイレ、浴室での支援でもプライバシーの確保を念頭に置きながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り支援している。うまく表現できない方は表情等からくみとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務で忙しい時もあるが一人一人のしたい事への支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問利用や美容院へ外出されたり洋服の着こなしも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物の時は代替品を提供し準備や片づけも役割をもちお手伝いしていただいている。	両ユニット2名ずつで構成する「調理委員会」で献立を作成している。生協との契約による配達が多くで補足の買い出しは職員が行っている。調理は両ユニットの当番職員の共同作業になっている。仕込みの手伝いを生き甲斐にしている人もおり、全員が出来る範囲で準備や後始末を手伝っている。職員も一緒にユニット合同でにぎやかな食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態は個々にあわせている。水分量少ない方は声掛けし飲んでいただいたりこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。出来る事はやっていたき出来ないところを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎に誘導し、できない事を支援している。パット汚染を減らす事により家族の負担も軽減するよう努めている。	ベッド中心の生活になっている1人を除き、声掛けや誘導でトイレに向かい用を足している。布パンツの人が3分の1おり、半数は見守りにより、介助なしで自力で頑張っている。夜はポータブルトイレ使用者1人を除き、誘導、介助によりトイレに立っている。現状を維持出来るよう支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳を飲んでいただいたり昼食のデザートはヨーグルトを提供する日が多い。トイレに着座し自然排便できるようになった方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが体調・気分で臨機応変に対応している。	週2回午後の入浴を基本にしている。ユニット毎に曜日を変えて(1丁目は月水金、2丁目は火木土)対応している。シャワー浴1人を除き、見守りや洗髪、背中洗いなどの介助により、ゆっくりと自分のペースで入浴してもらっている。男性職員が2人いるが特に拒否はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方は会話したり温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は介護記録にそれぞれ綴ってある。誤薬がないよう確認し飲み込みの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日勤者がレクを考え午前中に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きレク的に支援している。一人一人には事情等もあり対応できていない部分もある。	表通りは工事車両など車の往来が激しく、散歩は事業所の周囲や前庭に限られている。春秋のドライブ等ユニット毎に出掛けることが多くなっている。外に出ることを嫌う人もいるが、買い物や外食の機会をつくり、出来るだけ外出の機会を増やすよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が事務所で管理されているが必要な物、欲しい物がある時は対応している。個人で管理している方は職員に買い物をお願いしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して心地よく生活が送れるよう整理整頓を心がけている。その時々で季節に応じた飾り付けを行い季節を感じ取っていただいている。	玄関を入り、両ユニットが左右に配置されているが、ホールの間仕切りを取り除き、両ユニット共同で使用していることから、広いスペースのホールになっている。厨房も左右対称に位置し、夫々分担して調理を行うようにしている。利用者は3卓の食卓テーブルの指定席やテレビの前のソファで寛いでいる。芝生の中庭もあり陽光が差し込む明るいホールである。空調に気を配り居心地の良いホールになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファがありテレビを見たりお話ししたりできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に話し持ってきていただいている。	ベッドは、利用者が思い思いの位置に配置している。衣類や日用品ははめ込みのロッカーに整理されている。持ち込みの写真や趣味の飾り物などを揃えている。自分の洗濯物を干している人もおり、生活感があり、落ち着いて過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室は分かるようなものを提示し自立に向けた生活ができるよう努めている。		